

各 位

 フィデアホールディングス株式会社
 株式会社 荘内銀行
 株式会社 北都銀行

平成 30 年 3 月期（平成 29 年度）第 2 四半期 決算概要について

フィデアホールディングス株式会社（本社：仙台市、社長：田尾 祐一、以下「フィデアHD」）は、平成 30 年 3 月期（平成 29 年度）第 2 四半期連結業績等の概要と、株式会社荘内銀行（本店：山形県鶴岡市、頭取：上野 雅史、以下「荘内銀行」）及び株式会社北都銀行（本店：秋田市、頭取：斉藤 永吉、以下「北都銀行」）の単体業績等につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. フィデアHD
(1) 平成 30 年 3 月期第 2 四半期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）連結業績

低金利環境長期化の影響による貸出金利息の減少や有価証券の売却益の減少などから、経常収益は前年同期比 2 億 6 百万円（0.8%）減少し 248 億 5 百万円。一方で、与信関係費用が減少したことを主な要因として経常利益は前年同期比 27 百万円（0.7%）増加し 36 億 87 百万円。親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比 2 億 3 百万円（6.1%）減少し 31 億 21 百万円。

譲渡性預金を含む預金等残高は、公金預金を中心に前年同期比 35 億円（0.1%）減少し 2 兆 5,909 億円。貸出金残高は、個人ローンが増加した一方でシンジケートローン等の事業性貸出が減少したことなどから前年同期比 87 億円（0.4%）減少し 1 兆 7,607 億円。

		番号	フィデアHD	前年同期(末)	前年同期(末)比	同増減率
損 益	経常収益	(1)	24,805 百万円	25,011 百万円	△ 206 百万円	△ 0.8 %
	業務純益	(2)	2,294 百万円	4,274 百万円	△ 1,980 百万円	△ 46.3 %
	コア業務純益*	(3)	2,921 百万円	3,464 百万円	△ 542 百万円	△ 15.6 %
	経常利益	(4)	3,687 百万円	3,660 百万円	27 百万円	0.7 %
	親会社株主に帰属する中間純利益	(5)	3,121 百万円	3,325 百万円	△ 203 百万円	△ 6.1 %
主要勘定残高 (末 残)	総資産	(6)	28,519 億円	29,305 億円	△ 786 億円	△ 2.6 %
	預金等(譲渡性預金を含む)	(7)	25,909 億円	25,945 億円	△ 35 億円	△ 0.1 %
	貸出金	(8)	17,607 億円	17,694 億円	△ 87 億円	△ 0.4 %
	有価証券	(9)	8,718 億円	9,792 億円	△ 1,073 億円	△ 10.9 %
自己資本比率	自己資本比率(速報値)	(10)	9.19 %	9.61 %	△ 0.42 点	
経 営 効 率	コア業務粗利益経費率(OHR)	(11)	83.75 %	81.04 %	2.71 点	
不良債権	金融再生法開示債権額(2行合算)	(12)	36,344 百万円	37,786 百万円	△ 1,442 百万円	△ 3.8 %
	総与信に占める割合(2行合算)	(13)	2.00 %	2.08 %	△ 0.08 点	
	与信関係費用	(14)	△ 811 百万円	872 百万円	△ 1,684 百万円	- %

*コア業務純益 = 業務純益 - 国債等債券損益(5勘定戻) + 一般貸倒引当金純繰入額 (以下、同様。)

(2) 平成 30 年 3 月期（平成 29 年度）業績予想

第 2 四半期決算の状況を踏まえ、平成 29 年 5 月 15 日に公表した平成 30 年 3 月期通期業績予想を変更しております。

H30/3期	番号	フィデアHD (連結)	ご参考 H30/3期	荘内銀行 (単体)	北都銀行 (単体)
経 常 利 益	(15)	5,400 百万円	経 常 利 益	2,200 百万円	2,400 百万円
親会社株主に帰属 する当期純利益	(16)	3,900 百万円	当 期 純 利 益	1,300 百万円	2,000 百万円

(次ページへ)

2. 荘内銀行

平成 30 年 3 月期第 2 四半期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）単体業績

有価証券利息配当金や貸倒引当金戻入益が増加したことなどから、経常収益は前年同期比 51 百万円増加し 126 億 53 百万円。将来リスクの低減に向けたオペレーションにより有価証券売却損が増加したこと、本店建て替えに伴い経費が増加したことなどを要因として、経常利益は前年同期比 1 億 98 百万円減少し 14 億 5 百万円、中間純利益は前年同期比 4 億 91 百万円減少し 11 億 65 百万円。

譲渡性預金を含む預金等残高は、公金預金を中心に前年同期末比 255 億円減少し 1 兆 3, 227 億円。貸出金残高は、個人ローンが増加した一方で大企業向けや地方公共団体向けなどが減少し前年同期末比 224 億円減少の 9, 549 億円。

		番号	荘内銀行			
			前年同期(末)	前年同期(末)比	同増減率	
損益	経常収益	(17)	12,653 百万円	12,601 百万円	51 百万円	0.4 %
	業務純益	(18)	769 百万円	2,306 百万円	△ 1,536 百万円	△ 66.6 %
	コア業務純益	(19)	1,524 百万円	1,823 百万円	△ 299 百万円	△ 16.4 %
	経常利益	(20)	1,405 百万円	1,604 百万円	△ 198 百万円	△ 12.3 %
	中間純利益	(21)	1,165 百万円	1,657 百万円	△ 491 百万円	△ 29.6 %
主要勘定残高 (末残)	預金等(含む譲渡性預金)	(22)	13,227 億円	13,482 億円	△ 255 億円	△ 1.8 %
	貸出金	(23)	9,549 億円	9,774 億円	△ 224 億円	△ 2.3 %
	有価証券	(24)	4,342 億円	4,956 億円	△ 613 億円	△ 12.3 %
自己資本比率	自己資本比率(速報値)	(25)	9.32 %	10.00 %	△ 0.68 ㊦	
経営効率	コア業務粗利益経費率(OHR)	(26)	83.23 %	79.79 %	3.44 ㊦	
不良債権	金融再生法開示債権額	(27)	25,551 百万円	24,421 百万円	1,129 百万円	4.6 %
	総与信に占める割合	(28)	2.62 %	2.45 %	0.17 ㊦	
	与信関係費用	(29)	△ 391 百万円	593 百万円	△ 984 百万円	- %

3. 北都銀行

平成 30 年 3 月期第 2 四半期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）単体業績

貸出金利息や有価証券の売却益が減少したことなどから、経常収益は前年同期比 4 億 21 百万円減少し 113 億 69 百万円。一方で、与信関係費用が減少したことを主な要因として経常利益は前年同期比 52 百万円増加し 18 億 47 百万円、中間純利益は前年同期比 1 億円増加し 15 億 75 百万円。

譲渡性預金を含む預金等残高は、法人預金や個人預金を中心に前年同期末比 223 億円増加し 1 兆 2, 774 億円。貸出金残高は、個人ローンや地方公共団体向けを中心に前年同期末 113 億円増加し 8, 201 億円。

		番号	北都銀行			
			前年同期(末)	前年同期(末)比	同増減率	
損益	経常収益	(30)	11,369 百万円	11,791 百万円	△ 421 百万円	△ 3.5 %
	業務純益	(31)	1,034 百万円	1,634 百万円	△ 599 百万円	△ 36.6 %
	コア業務純益	(32)	1,057 百万円	1,309 百万円	△ 251 百万円	△ 19.2 %
	経常利益	(33)	1,847 百万円	1,794 百万円	52 百万円	2.9 %
	中間純利益	(34)	1,575 百万円	1,474 百万円	100 百万円	6.8 %
主要勘定残高 (末残)	預金等(含む譲渡性預金)	(35)	12,774 億円	12,550 億円	223 億円	1.7 %
	貸出金	(36)	8,201 億円	8,087 億円	113 億円	1.4 %
	有価証券	(37)	4,375 億円	4,835 億円	△ 460 億円	△ 9.5 %
自己資本比率	自己資本比率(速報値)	(38)	11.16 %	11.80 %	△ 0.64 ㊦	
経営効率	コア業務粗利益経費率(OHR)	(39)	86.94 %	84.62 %	2.32 ㊦	
不良債権	金融再生法開示債権額	(40)	10,793 百万円	13,365 百万円	△ 2,571 百万円	△ 19.2 %
	総与信に占める割合	(41)	1.28 %	1.62 %	△ 0.34 ㊦	
	与信関係費用	(42)	△ 532 百万円	299 百万円	△ 831 百万円	- %

以上

【本件に関するお問い合わせ先（報道関係）】

IRグループ 大石 (TEL:022-290-8800)、佐藤 (TEL:023-626-9006)、市田 (TEL:018-833-4211)